

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所びーす				公表日	2025年12月29日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6名		法令を遵守したスペースを確保できており、職員の目が行き届きやすい広さになっている。 室内を広く使えるように、机や椅子・玩具などはその都度出し入れするようしている。	利用者様の静養室が防音ではないことから、クールダウンに時間を使ることがある。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5名	1名	法令で必要とされる配置数より多くの保育士を配置している。	理学療法士や言語聴覚士等の専門的指導員が増える事が望ましい。人員基準を満たしても余裕をもって確保する方がより濃い支援を提供できる。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4名	2名	座る・立つ場所や入ってはいけない場所の目印や、一日の流れが分かる様スケジュールが掲示されている。	出入り口のすぐそばに階段があり、足の不自由な方にとっては不便を感じる。 構造上建物に手を加えて収納具を固定をすることが困難な為、固定具を用いて安全上問題が無いようしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6名		子どもや職員がよく触る場所は定期的に消毒する等、日々環境整備を行い安全な環境作りに努めている。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6名		子どもが一人になりたい様子の時は、部屋の隣にパーティションを置いたり、スタッフと部屋の外に出て落ち着けるように配慮している。	訓練室が一つしかない為、もう一部屋を作るのは難しい。(一部屋作ると、現訓練室が狭くなってしまう為)	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6名		PDCAサイクルについてはスタッフが把握しており、療育で悩んだ際には活用するようしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6名		定期的にびーすへのご要望がないかを保護者様に確認し、ご要望に応えられるようにしている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6名		スタッフ間で情報の共有と今後の課題について話し合う時間を設け(パート職員は勤務時間の関係で参加出来ないねで、後日伝えている)改善に努めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6名		第三者による評価は行っていない。今後の検討課題とする。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6名		定期的に研修を受講する機会が設けられており、積極的に参加をするようにしている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6名		子ども一人一人の特性を把握し、改善に導いていくように療育材料も増やし、プログラムを組み立てている。また、連絡帳や口頭で保護者に毎日伝えている。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6名		連絡帳やメール・送迎時等、様々なタイミングで保護者様と連絡が取りやすいよう工夫し、自宅での様子だけでなく、園での様子も細かく聞き取りをして支援計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6名		子ども達の成長や小さな気付きに対して、個別支援計画会議を通して意見交換をしている。子ども達に関わる内容は、全てミーティング等で共通理解できるようにしている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6名		児童発達支援計画の内容をスタッフ全員が確認しており、計画に沿った支援を行うように指示している。また、計画から支援が逸れていないか定期的に振り返って確認するようにしている。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6名		子ども達の日常での変化や小さなことでも気付けるように行動観察をしながら療育を行っている。また保護者様と連携し、子どもの興味・関心のある物が増えた時には教えてもらう様にしている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6名		全ての支援について、個別支援計画書に記載している。子ども達の通園している幼稚園や保育園に連絡を取り、関係連携会議を通して情報共有を行っている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6名		ミーティング等を通して、子ども達の現状を踏まえて必要な活動プログラムの内容を検討して実施している。また、今後より良いプログラムになるよう、改善点があれば提示し改善している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6名		プログラム表を作成して予定を可視化し、同様の内容が続かないように気を付けている。また担当スタッフを日替わりにして新しい事を取り入れたり、今まで行ったことがあるプログラムを子どもの成長に合わせて展開したり工夫している。		

	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6名		個別活動する時間と集団活動をする時間を、一日の生活の中で分けて取り入れている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6名		スタッフ間で打ち合わせをする時間を必ず設け(パート職員は勤務時間の関係で参加出来ないので、出勤後すぐに伝えている)共有できている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6名		スタッフ間で振り返りや送迎時の情報共有など話し合う時間を必ず設け(パート職員は勤務時間の関係で参加できないので、後日伝えている)共有できている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6名		支援経過記録・専門的支援経過記録など、記録を必ず取り、検証や改善に繋げている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6名		半年に一回モニタリングを行い、子どもの様子を共有すると共に、細かく聞き取りを行いその結果を元に適切な見直しをしている。	
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6名		会議は行っていないが、相談支援事業所とごまめに連絡を取って情報共有している。	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6名		保健センターの方に新しく利用する子ども達の紹介をしてもらう事があり、繋がりがある。他の機関も必要であれば連携している。	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6名		利用している子どもが通園している保育園・幼稚園に連絡を取って、関係連携会議や電話での情報共有を積極的に行っている。支援内容を園と擦り合わせて、療育の向上を図っている。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		6名		今後、年長児の就学前相談の前などに小学校と連携が取れるように、積極的に連絡していく。
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		6名		スーパーバイザーと関わる機会があれば、意欲的に関わりたい。近くで誰がスーパーバイザーに当たるのかが不明な為、探して事業所に合ったアドバイザーを見つけていく予定である。
□	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4名	2名	偶然にはなるが、公園などで地域の子ども達と会えた際には、仲良く遊べるように支援をしている。	地域の子ども達と関わる機会を設けられない為、交流出来る機会と場所を今後検討していく。
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6名		連絡帳や電話でのやり取りに加え、送迎時に口頭で伝える事で共通理解を持つことができている。	
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6名		家族支援を通して、家庭内での困りごとがあれば連絡帳に記載してもらったり、電話やメールで連絡してもらう等、いつでも対応する事を伝えている。また、ご希望に応じて見学に来てもらい実際の支援の方法を見てもらう事もある。	
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6名		個別支援計画・専門的支援計画の更新の時に、支援プログラムや療育の内容について説明を行っている。	
□	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6名		半年に一回モニタリングを行い、その時に細かく聞き取りをした内容を基に計画を作成し、その都度更新している。	
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6名		支援計画の説明と確認を行い、署名と捺印をもらう事で同意を得ている。	
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6名		半年に一回モニタリングを行ったり、送迎時や連絡帳・メールでのやり取りを通して、助言や支援を行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6名		ご希望があれば個別で療育の様子を見学にきてもらう事はあったが、保護者同士が交流する機会は今年度は無かった。今後ご要望があれば検討する。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6名		連絡帳・電話・メール・送迎時など、様々な方法で連絡してもらえるように伝えている。相談事があれば、確認した日の内に助言して対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6名		毎月びーす通信を発行・配布したり、SNSで取り組んでいる事を写真付きで発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6名		個人ファイル等は、鍵付きのロッカーに置き、退勤時には必ず鍵を閉めるように徹底している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6名		メール・電話・送迎時等、様々な方法で情報伝達できるようにしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6名		地域住民を招待する機会を設ける事ができていない為、見学を兼ねて事業所を見てもらう機会を設けられるように検討する。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6名		各マニュアルを策定し職員に周知し、定期的に事業所全体で訓練を実施している。また、訓練を行った際には連絡帳や口頭で保護者に伝えている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6名		感染症及び災害時のBCPを策定し、研修・訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6名		契約時に細かく保護者から聞き取りを行うと共に、サポートブックに記入してもらっている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6名		現在対象となる利用者はいないが、今後必要になった場合は保護者から医師の指示書を基に状況を聞き取り、家庭と同じ対応を取っていく。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6名		施設内の設備点検の他、災害時や散歩、送迎不振者対応などのマニュアルを策定し、研修・訓練を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6名		訓練の様子などをお便りに掲載し、安全計画の取り組みを周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6名		ご利用者様が事業所内にて怪我された場合には、職員間で共有・話し合いを行い、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6名		定期的に職員研修の時間を設け、共有がされている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6名		現在対象となる利用者はいないが、今後必要な場合には、場面に応じて考えて計画していく。	